



木曾義仲公と『権現滝』

「木曾署」城山国有林は木曾福島の市街地の北西に隣接し、標高は七九〇〜一、二八九㊦、名前は一五五六年に築城された福島城跡があることに由来します。

権現滝は、この城山国有林にあり、主峰兎野山（一、二八一㊦）から流れ出る黒木沢の中ほどに赤チャートの岩の大きな落差と天然林の中に静かに流れ落ちる様子が特徴で、しばし下界の煩わしさを忘れさせてくれるスポットとなっております。

この滝は、木曾義仲が平家追討の兵を挙げた際に、この滝で御岳大権現の出現を願い、沐浴祈願したことからこの名がつけられたとの謂われがあります。滝の手前の紅葉ヶ丘からは、木曾川の流れが緩やかに町の中心部を流れる木曾福島の町並みを眺めることができます。周辺の天然林には、二五〇年以上の木

曾ヒノキやモミ、ツガ、ケヤキ、カツラ等の大木が鬱蒼と茂り、市街地に接する場所とは思えないほど静かな環境を作り出しています。

一带は城山風致探勝林に指定され、遊歩道が町中から直接連絡し、行人橋から滝までの最短コースでは片道一キロ㊦五十分で到達出来ます。

当署の城山林道も開放されており、町に近いことなどから地元住民や観光客がよく訪れています。

城山国有林の入口には、興禪寺があり、木曾義仲公の墓があります。

◇アクセス方法

〔公共交通機関〕

JR中央本線木曾福島駅下車

タクシーで十五分 徒歩で五分

木曾福島駅から徒歩のみで六十分

〈参考〉「義仲」について

木曾義仲は、六条判官源為義の孫、帯刀先生義賢の次男として久寿元年に武蔵国大蔵に生まれ、幼名駒王丸といった。

当時義賢の実力を恐れて兄の義朝は長子義平に命じて義賢を亡きものにし、更に駒王丸の血筋の畠山重能に駒王丸まで殺すことを命じた。

この畠山は二歳の子を殺す事が出来ず結果として駒王丸の乳母の夫である信濃の権守中原兼遠に養育を頼んだ。駒王丸は仁安元年一三歳で元服木曾次

郎義仲と名乗った。兼遠が義仲の館を宮の越に築き、側女には巴を添えた。京都では、平氏が増長し、行い目に余るものであった。

これを憂いた源氏の老将頼政が後白河法皇の第三皇子と献策し、実質の宮の令が発効し、諸国の源氏が動いた。

このころ義仲は、木曾の山林で知勇備え武技に秀でた素質を表し、木曾の地で天下形勢を知り、いかに平氏を討ち源氏再興を図ろうかと機を窺っていたところへ令旨が届き、ここぞとばかり奮起し



涼しげに流れ落ちる権現滝

た。

当時信濃の情勢も豪族は源氏に心を寄せる者が殆どで義仲が平氏討伐の兵を挙げるや呼応して信濃全体が味方した。

その後の戦に於いても平氏に反する勢力等の加勢もあって見事に平氏を討つことに成功した。

(参考文献・木曾の山林を巡る歴史 北沢啓司著 一部要約)



木曾川と木曾福島の町並み